

民間美術館から 公立美術館に来ると

草薙 奈津子



■草薙 奈津子 〈プロフィール〉

慶応義塾大学文学部卒業。山種美術館学芸部同企画・普及課長、学習院大学、慶應義塾大学、東京芸術大学非常勤講師を経て、2004年から平塚市美術館館長。併せて美術評論家連盟常任委員長、美術史学会、明治美術学会、フェノロサ学会各会員。

平塚市美術館館長に就任したのはこの4月。知っていたとはいえ、やはり建物の立派さには感じ入る。内部はすべて大理石張りである。私は長いこと私立の美術館に勤めていたから、いわゆるハコモノには恵まれなかった。展示場は贅沢な造りであったが、事務所も学芸員室もこれ以上狭くは出来ないだろうと思うくらいに狭かった。今思い出しても微苦笑してしまうのは、「こんな狭いところで皆さんよく立派な仕事をなさってますね。」と、褒められたのか、けなされたのか判らないようなことを言われたことである。言ったのは勿論、立派な建物の公立美術館の学芸員であった。

建物には負けるが、美術コレクションの質量という点では、大方の公立美術館は高名な私立美術館には到底及ばない。だからすぐれた美術品に囲まれていたかつての環境を思うと、今の私はいささかフラストレーションを起しそうな状態になる。それを救ってくれるのが、快適な建物と緑多い環境であるから、ハコモノ行政などと揶揄できない。むしろこのハコモノを有効に使えないかと日夜考える。

あまり建物が立派だと、近寄りがたいのか、なかなか美術館に足を運んでくれない。だが、誰にでも日常とちがうハレの空間に浸りたいと思う瞬間があるだろう。そんな時こそ美術館を思い出してほしい。

美術館には入場料というのがある。しかしタダで入れる場所だっていっぱいある。と、いうより、展示場以外は全てタダなのである。立派な皮製ベンチのあるロビーも、椅子と大きなテーブルのある図書コーナーも、いささか旧式ながら情報コーナーも、それにトイレも、みなタダで使える。これら1階にある部分だけでなく、2階のロビーも、彫刻のあるライトコートも、タダ区域である。散歩の途中一休みしたいと思った時、ちょっと本を読みたい、画集を見たいなんていう時、急にトイレに行きたくなった時、等々、色々な時に美術館は利用できる。それでもやはり入りづらい、と思うかもしれない。しかし一度入ってしまうと、案外次からは楽になる。取って食おうなんて恐ろしい形相をしている人など職員にいない！ 特に受付には優しい人ばかりを揃えている！

1階ロビーまで入ってきてくれたら、その次は2階ライトコートまで、そしてついには展示場まで！となってくれたら、もうしめたもの。展示場では、決して豊富でないコレクションと悪戦苦闘しながら、だから他所から作品を拝借したりして、創り上げた素晴らしい展覧会が待ち受けている。

展覧会を見たくても見られない人がいる。開館時間のせいである。5時に閉館してしまうと、大体の勤め人が帰りに…というわけにいかない。かといって休みの日にわざわざ出て来るのは億劫という人たちに何とか見て欲しいのである。

美術館周辺には市役所や民間会社もたくさんある。だから閉館時間を6時に…との発想は小学生でもできる。開館時間の変更など私立なら簡単な問題である。何しろお客様第一なのだから。そもそも美術館はサービス業の一種でもあるのだから。ところが役所内で8時半～5時という就業規則をかえることは至難の業らしい。職員の勤務時間が1時間ずれるのではなく、毎日1時間の残業を強い、経営者側は残業代を支払わなければならないのだから。で、私は未だに言い出せないでいる。

時々、来館者に「どこか近くで美味しいレストランはありませんか」と尋ねられる。即、美術館周辺の美味マップを作ろうと思った。でも「公立というところは常に公平でなければいけない。だからマップを作るなら、全ての食堂を載せなければいけない。」といわれたときには驚いた。そして“公平”ということについてしばし考え込んでしまった。例えば¥980で美味しく食べさせてくれる所も有れば、不味い所もある。払う側からみたら、それこそ不公平ではないだろうか！？

公立に来ると、節約しているのか無駄使いしているのか、判断に苦しむ時がしばしばある。それに自腹を切らなければいけない場合も結構ある。

そもそも登録業者からしか買物が出来ない。だから¥100 ショップに安くて恰好なものがあっても、登録業者から高く買うことになる。もったいないと思って¥100 ショップで買ったなら自腹を切ることになる。仕事で美術館までご足労願った方にお食事くらいと思ったら、勿論個人的におごることになる。

かように民間から来た者には、公立というところは判らないことだらけである。

でも美術館というのは目標が明快なところである。作品の収集、研究、公開、保全、そして教育・普及。これを基盤に、入館者というお客様をつねに意識していればよいのだから。ただ困ったことにおしなべて美術館は貧乏で、しかも金食い虫ときている。なかなかお客様のためと思っても、お金を要することは実現できない。だが最近嬉しいことは、某ロータリークラブからベンチ寄贈の申し出を受けたことである。その内、散歩の途中に美術館の前庭で一休みしていただくこともできるだろう。

前庭からロビーへ、ロビーから展示場へ、それが私のねらいである。